

▼東海

集まってワイワイ・ガヤガヤが良かった東海民放クラブ総会及び懇親会

山中 強司(CTV)

春の陽気に恵まれた4月22日、当クラブの総会及び懇親会が開催された。日本民放クラブからは中村理事に、関西民放クラブからは松島副会長にご出席いただいた。当クラブの会員40名余りが参加。中には92歳でかくしやくとされておられる会員や、奥さんの介助で車椅子でお越しいただいた会員もあって、思わず感激。



(前列左から)来賓の中村理事、松島副会長を囲んで

会場は昨年と同じルブラ王山。亀関理事の司会で定刻の11時より総会が始まった。会長の挨拶に続き、予定された議案に沿って議事は進行。昨年度の活動報告、会計報告、今年度の活動計画、予算について理事長からエピソードを交えた説明や、時には笑いを誘うネタもあり、議案はすべて承認され、総会を終えた。

ここで会場を懇親会用に切り替え、冒頭で中村理事より全国誌の現状など、流暢な挨拶を。続いて、松島副会長による乾杯で懇親会がスタート。

頃合いを見て、講師の旭堂鱗林(りんりん)さんによる「象列車ものがたり」を拝聴。戦時中、各地の動物園では動物の処分が行なわれましたが、名古屋の東山動物園では象の保護に尽力。戦後、生き残った象を見たいという子供達のために全国各地から象列車が名古屋の東山動物園に向け、運行されたという話である。昨年、好評だったこともあり、今回も懇親会に来ていただいた。話の枕には時事問題や万博の話も。また、昨

年の「藤井聡太ものがたり」のおさらいもあり、ざわついていた客席も次第に話に引きずり込まれてゆく。30分余りであったが、思わず聞き入ってしまった。

終えて、お酒も入った会場は旧交を温めあつたり、元気で参加できたことを喜ぶ人など、昔話も加わり和やかな雰囲気。予定された時間を超えて、話が弾んでいた人たちもあつた。高齢になるにつれ、雑談するこういう機会が楽しいのだ、大事なのだと思えて実感。

当クラブも高齢化が進み、クラブ活動への参加がひと頃に比べると減少気味。また、新たな入会者が少ないこともあり、会員問題が

目下の課題。会報とクラブ活動が当クラブの肝、二本柱であることを改めて再確認し、今年度に向けて好発進したい。そんなことを再認識した一日となった。

